

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

# ソフ<sup>ト</sup>ボ<sup>ー</sup>ル

2026年／令和8年  
第491号  
1・2月合併号  
(毎月1回 10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

TEL. 03-5843-0480 FAX. 03-5843-0485

編集部 (株)日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

TEL. 03-3811-6911 FAX. 03-3811-6290



男子U23日本代表チーム選手選考会（2025.12.2～5／高知県高知市）

## C o n t e n t s

・ニトリ JD.LEAGUE 2025 個人表彰	2	・日韓ジュニアスポーツ交流事業（訪韓）	12
・第58回日本女子リーグ個人表彰	4	・来るべき新たなシーズンへ	14
・第54回日本男子リーグ個人表彰	6	・令和7年度第4回理事会議事録	16
・男子U23日本代表レポート	8	・事務局だより	20
・女子TOP日本代表レポート	10		

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

# ◆ニトリ JD. LEAGUE 2025 個人表彰◆

東 地 区			
年間最高殊勲選手賞	中川彩音 (戸田中央 メディックス埼玉)		打率0.396 10本塁打 19打点
最優秀防御率賞	増田侑希 (戸田中央 メディックス埼玉)		防御率0.96
最多勝利投手賞	後藤希友 (戸田中央 メディックス埼玉)		13勝2敗
首位打者賞	中川彩音 (戸田中央 メディックス埼玉)		打率0.396
最多本塁打賞	中川彩音 (戸田中央 メディックス埼玉)		10本塁打
最多打点賞	坂本結愛 (戸田中央 メディックス埼玉)		31打点
最多盗塁賞	川村莉沙 (ピックカメラ高崎 ピークイーン)		12盗塁
	中川彩音 (戸田中央 メディックス埼玉)		
ベストナイン	投手	後藤希友 (戸田中央 メディックス埼玉)	13勝2敗 防御率1.17
	捕手	坂本結愛 (戸田中央 メディックス埼玉)	打率0.344 8本塁打 31打点
	一塁手	内藤実穂 (ピックカメラ高崎 ピークイーン)	打率0.267 3本塁打 22打点
	二塁手	川畑瞳 (ホンダリヴェルタ)	打率0.337 3本塁打 14打点
	三塁手	笠原朱里 (日立 サンディーバ)	打率0.309 6本塁打 18打点
	遊撃手	三輪玲奈 (戸田中央 メディックス埼玉)	打率0.323 2本塁打 8打点
	外野手	中川彩音 (戸田中央 メディックス埼玉)	打率0.396 10本塁打 19打点
		山口みどり (戸田中央 メディックス埼玉)	打率0.333 9本塁打 22打点
		塙本螢 (ホンダリヴェルタ)	打率0.333 6本塁打 18打点
	指名選手	山口未葵 (ホンダリヴェルタ)	打率0.293 2本塁打 17打点
新人賞	投手部門	奥野心 (日立 サンディーバ)	1勝2敗 防御率2.85
	野手部門	谷口日彩 (デンソー ブライトベガサス)	打率0.363 2本塁打 12打点

西 地 区			
年間最高殊勲選手賞	メーガン・ファライモ (トヨタ レッドテリアーズ)		18勝3敗 防御率0.73 164奪三振
最優秀防御率賞	メーガン・ファライモ (トヨタ レッドテリアーズ)		防御率0.73
最多勝利投手賞	メーガン・ファライモ (トヨタ レッドテリアーズ)		18勝3敗
首位打者賞	島仲湊愛 (トヨタ レッドテリアーズ)		打率0.395
最多本塁打賞	安川裕美 (伊予銀行 ヴェールズ)		9本塁打
	山田柚葵 (トヨタ レッドテリアーズ)		
最多打点賞	山田柚葵 (トヨタ レッドテリアーズ)		33打点
最多盗塁賞	小林美沙紀 (SHIONOGI レインボーストークス)		20盗塁
ベストナイン	投手	メーガン・ファライモ (トヨタ レッドテリアーズ)	18勝3敗 防御率0.73
	捕手	安川裕美 (伊予銀行 ヴェールズ)	打率0.300 9本塁打 18打点
	一塁手	ステシー・ポーター (SGホールディングス ギラクシースターズ)	打率0.299 5本塁打 16打点
	二塁手	須藤志歩 (豊田自動織機 シャイニングベガ)	打率0.353 6本塁打 19打点
	三塁手	木村愛 (SHIONOGI レインボーストークス)	打率0.314 4本塁打 14打点
	遊撃手	石川恭子 (トヨタ レッドテリアーズ)	打率0.341 2本塁打 11打点
	外野手	島仲湊愛 (トヨタ レッドテリアーズ)	打率0.395 3本塁打 15打点
		山田柚葵 (トヨタ レッドテリアーズ)	打率0.359 9本塁打 33打点
		谷本奈々 (SHIONOGI レインボーストークス)	打率0.288 6本塁打 17打点
	指名選手	マケナ・スマス (豊田自動織機 シャイニングベガ)	打率0.286 5本塁打 15打点
新人賞	投手部門	成瀬結衣 (トヨタ レッドテリアーズ)	5勝1敗 防御率1.75
	野手部門	伊藤美紅 (日本精工 ブレイブペアリーズ)	打率0.225 5本塁打 11打点

Most Wow! Player of the Year	坂本結愛（戸田中央 メディックス埼玉）	年間7回受賞
Wow! Experience 賞	伊予銀行 ヴェールズ	
JD.LEAGUE特別賞	上野由岐子（ピックカメラ高崎 ピークイーン）	通算250勝 2500奪三振
	藤田倭（ピックカメラ高崎 ピークイーン）	通算200打点

**▼ Most Wow! Player of the Year**

…ニトリ JD.LEAGUE 2025 レギュラーシーズンの全試合で実施した Most Wow! Player 賞の受賞回数が最も多い選手に贈られます。

**▼ Wow ! Experience 賞**

…JDリーグがかかるダイヤモンドエンタテイメントのキーワード「Wow! Experience」（驚きや感動・興奮を提供する）に最もふさわしい活躍をされた選手やチーム関係者に贈られます。

**▼ JD.LEAGUE 特別表彰**

…JD.LEAGUE および日本ソフトボール界に対して多大な貢献が見られた選手、団体等に贈られます。

**ニトリ JD.LEAGUE AWARDS 2025**

## 第58回日本女子リーグ個人表彰

賞	選手名	成績
最高殊勲選手賞	宮坂 佑希 (YKK)	打率0.500 4本塁打 13打点
ベストナイン（プラチナセクション）	投 手	小井沼 美月（静甲）
	捕 手	林 佑奈 (Citrine Ichinomiya)
	一塁手	小黒 美空（静甲）
	二塁手	鈴木 真由子 (MORI ALL WAVE KANOYA)
	三塁手	矢崎 月菜 (大和電機 Blue Lakers)
	遊撃手	西出 蓮実 (ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校)
	外野手	藤田 直 (MORI ALL WAVE KANOYA)
		岡田 南 (花王コスメ小田原 フェニックス)
		福元 彩未 (MORI ALL WAVE KANOYA)
ベストナイン（サファイアセクション）	指名選手	新海 雪奈 (大和電機 Blue Lakers)
	投 手	畠中 萌 (YKK)
	捕 手	青木 千秋 (YKK)
	一塁手	岡田 望 (平林金属 Peachblossoms)
	二塁手	釣 春香 (ペヤング)
	三塁手	守時 瑞希 (小泉病院 Blue Arrows)
	遊撃手	立川 夏波 (小泉病院 Blue Arrows)
	外野手	宮坂 佑希 (YKK)
		大内 麻里奈 (YKK)
		橋本 奈津紀 (小泉病院 Blue Arrows)
	指名選手	泉野 美音 (小泉病院 Blue Arrows)



チーム紹介・選手プロフィール・試合スケジュール等詳細はJSLオフィシャルウェブサイトで！

## 第54回日本男子リーグ個人表彰

賞	選手名	成績
最高殊勲選手賞	浜本 恒（平林金属）	打率0.449 2本塁打 7打点
最優秀防御率賞	野本 誠士（高知パシフィックウェーブ）	防御率0.99
最多勝利投手賞	大西 泰河（ジェイテクト）	11勝6敗
首位打者賞	浜本 恒（平林金属）	打率0.449
本塁打王	八木 孔輝（トヨタ）	8本塁打
打点王	鳥山 和也（平林金属）	23打点
盗塁王	浜本 恒（平林金属）	7盗塁
ベストナイン	投 手	景山 蓮（平林金属） 5勝0敗 防御率1.12
	捕 手	山内 貴博（大阪桃次郎） 打率0.327 7本塁打 14打点
	一塁手	鳥山 和也（平林金属） 打率0.383 6本塁打 23打点
	二塁手	八角 光太郎（平林金属） 打率0.409 1本塁打 7打点
	三塁手	真崎 海斗（トヨタ） 打率0.420 4本塁打 15打点
	遊撃手	大川 竜志（ジェイテクト） 打率0.340 2本塁打 12打点
		浜本 恒（平林金属） 打率0.449 2本塁打 7打点
	外野手	黒岩 誠亥（トヨタ） 打率0.442 3本塁打 7打点
		小島 銀河（愛媛ウエスト） 打率0.352 2本塁打 15打点
	指名選手	小原 孝太（大阪桃次郎） 打率0.396 5本塁打 19打点





日本男子リーグのチーム情報等は日本ソフトボール協会オフィシャルホームページで！

## ●男子U23日本代表レポート●



選考会初日はまず参加選手全員の体力・運動能力を測定。握力、背筋力、6秒全力ペダリング、50m走（光電管センサーで10・20・30・50m地点を測定）と4種目の測定で各選手の基本的な運動能力をチェック・数値化。並行



『前回準優勝を超えて、世界一を勝ち取る!』その大きな目標を達成すべく、選手個々のこれまでの実績、この選考会における成績を評価するのはもちろんのこと、「世界トップレベルで戦える選手か否か」がじっくりと見極められた。

昨年12月2日（火）～5日（金）、高知県高知市／春野総合運動公園を会場に「男子U23日本代表チーム選手選考会」（第2回男子U23ワールドカップ出場選手選考会）が開催され、全国から49名の選手がチャレンジ。

選考会2日目以降は49名の参加選手をA・B・C・Dの4つのグループに振り分け、紅白戦形式で対戦させる実戦主体の選考内容。（2日目）～4日目に及ぶ紅白戦で選手一人ひとりの「実戦能力」（※投手は与えられたイニング数の中でどこまで実力を発揮できるか、野手は守備、打撃、走塁といった基本的な要素に加え、攻守における特徴・ストロングポイントの有無、実戦の中での状況判断能力やそこで選択したプレイの有効性・確実性、また、それらの要素・能力が「世界に通用するレベル」にあるかどうか等）を厳しくチェック。各選手最終日の紅白戦のラスト一球・ワンプレーまで懸命にアピールを続け、4日間にわたる選考会の全日程を終了した。

厳正な選考を経て決定した「男子U23日本代表16名」は9頁の通り。「第2回男子U23ワールドカップ」は本年4月25日～5月3日、コロンビア・シンセレホを舞台に開催される予定である。

## ◆男子U23日本代表チーム (第2回男子U23ワールドカップ出場選手)

### ・投手

阿曾 慶太（平林金属）  
高橋 理央（同志社大）  
帆足 陽平（日本エコシステム）  
八木 孔輝（トヨタ）



### ・捕手

上野 結来（同志社大）  
米野 智陽（旭化成）



### ・内野手

安形 恭悟（中京大）  
有村 翼冴（環太平洋大）  
木戸 蓮織（大阪桃次郎）  
田宮 有貴（ジェイテクト）  
永吉 飛斗（旭化成）  
山本 陸人（豊田自動織機）



### ・外野手

宇宿 雅哉（ジェイテクト）  
大野流畏斗（トヨタ）  
芝 海人（高知パシフィックウェーブ）  
津田 龍輝（日本体育大）



# 第18回WBSC 女子ワールドカップ グループステージ グループ分け決定！

FOR THE TITLE OF WORLD CHAMPION



GROUP A	GROUP B	GROUP C
Czechia, 16-20 June 2026	Peru, 14-18 July 2026	USA, 12-16 September 2026
AUSTRALIA	GREAT BRITAIN	CHINA
CANADA	JAPAN	MEXICO
CUBA	PERU	NETHERLANDS
CZECHIA	PUERTO RICO	NEW ZEALAND
ITALY	UGANDA	SOUTH AFRICA
CHINESE TAIPEI	VENEZUELA	USA

WBSC.ORG

#SoftballWorldCupW

@WBSC

## 「連覇」へ向けた戦いがスタート！

「第18回WBSC女子ワールドカップ」は、2026年にエチオピア、ペルー、アメリカで「グループステージ」が開催され、翌2027年にオーストラリアで開催される「ファイナル」に出場する8チームを決定する。

「グループステージ」には、各大陸の予選を勝ち抜いた18チームが登場。この18チームが6チームずつA・B・C3つのグループに振り分けられ、各グループ上位2チームに与えられる「ファイナル」への出場権獲得をめざし、戦うことになる。

「グループA」「グループB」「グループC」への振り分け、出場チームの顔ぶれは次の通り。

### 【グループA】

▽2026年6月16日～20日

チエコ・プラハで開催

### 【出場チーム】

カナダ（世界ランキング4位）

チャイニーズ・タイペイ（同5位）

イタリア（同9位）

チエコ（同10位）

オーストラリア（同11位）

キューバ（同14位）

### 【グループB】

▽2026年7月14日～18日

ペルー・リマで開催

**【出場チーム】**

日本（世界ランディング1位）  
ペルトトリコ（同3位）  
イギリス（同12位）  
ベネズエラ（同16位）  
ペルー（同18位）  
ウガンダ（同53位）

### 【グループC】

▽2026年9月12日～16日

アメリカ・オクラホマシティで開催

### 【出場チーム】

アメリカ（世界ランディング2位）

オランダ（同6位）

メキシコ（同7位）

中国（同8位）

ニュージーランド（同23位）

南アフリカ（同36位）

※世界ランキングは  
2025年12月31日時点のもの

チエコ・プラハで開催される「グループA」から順に、「グループB」「グループC」と戦いの舞台が移っていき、2027年4月5日～11日、オーストラリア・レッドクリフで開催される「ファイナル」への出場をめざし、熱戦を繰り広げることになる。

大会の試合スケジュール詳細はまだ発表されていないが、前回と同じ試合方式であれば、「グループA」「グループB」「グループC」各グループ出場6チームでシングルラウンドロビン（1回総当たり）方式のリーグ戦（オープニングラウンド）を行い、1位～6位を決定。1位と2位、3位と4位、5位と6位が対戦し、最終順位を決定。オープニングラウンド5位・6位のチームはその時点で「ファイナル」進出の可能性がなくなり、4位の対戦の勝者が3位・1位・2位の対戦の勝者がまず「第1代表」となり、その試合の敗者が3位・4位の対戦の勝者と対戦。「第2代表」の座をかけ、戦うことになる。

この「第1代表」「第2代表」となったチームが「ファイナル」に駒を進め、「ワールドカップ優勝」「世界」の座を争う「最終決戦」に駒を進めることになる。「デイフェンディングチャンピオン」として迎える「第18回WBSC女子ワールドカップ」で「連覇」を狙う「世界ランギング1位」の女子TOP日本代表は、「第18回WBSC女子ワールドカップ」の大陸予選にあたる「第14回アジアカップ」（2025年7月14日～20日／中国・西安で開催）を9戦全勝で「優勝」し、「グループステージ」進出を決めている（※大会出場メンバー、大会結果詳報はこちら）。

来夏、ペルー・リマで開催される

「グループB」では、ペルトリコ、イギリス、ベネズエラ、ペルー、ウガンダと同組となり、上位2チームに与えられる「ファイナル」への出場権をかけ、戦うことになる。

まずは「グループステージ」を突破し、「ファイナル」に駒を進め、そこで「連覇」を達成すれば、早くも「LA28」（2028年ロサンゼルスオリンピック）の出場権を獲得することになる（ワールドカップ優勝チームにはLA28への出場権が与えられる）。また、LA28のホスト国であるアメリカはすでに「開催地権」でオリンピック出場が決定しているため、アメリカが決勝に進出すれば、その対戦相手となるチームは、優勝しても準優勝に終わっても「ワールドカップ最上位」のチームとして、オリンピック出場権を手にすることになる。

女子TOP日本代表は昨年末、群馬県高崎市で「第3次国内強化合宿」（12月4日～16日）を実施し、年明け早々には長崎県大村市で「第4次国内強化合宿」（1月15日～25日）を行い、そのまま、オーストラリアでの「第1次海外強化合宿」（1月25日～2月6日）へ。アメリカ・カリフォルニアでの「第2次海外強化合宿」（2月14日～25日）まで、「ノンストップ」で強化に励むことになる（※各合宿参加メンバーはこちら）。ワールドカップ「連覇」、オリンピック「3大会連続の金メダル」へ向けて戦いはもう始まっている!!



「世界一」のチームであるために……自らを鍛え、高める日々が続く



# 日韓ジュニアスポーツ交流事業

（ソフトボール競技／チーム派遣）

令和7年11月25日（火）～30日（日） 韓国・釜山



## 日韓両国のレベルアップをめざして 韓国・釜山で活発に親善・交流

今回の「チーム派遣」事業では、2025年3月に開催された「第43回全国高校選抜女子大会」で優勝した千葉経済大学附属高等学校ソフトボール部が「日本代表」として、韓国・釜山を訪問。6日間にわたり充実した交流プログラムを実施した。

従前は、9月初旬にまず日本チームが韓国を訪問。11月に韓国チームが来日するのが「通例」であったが、2023年から韓国チーム（女子U18チーム）が先に来日し、「日本代表チーム」が11月に韓国を訪問するパターンに切り替えられている。

この「交流事業」は、アジア近隣諸国とのスポーツ交流を促進し、両国の友好親善と競技力向上を目的に「相互派遣方式」で実施されている。

去る11月25日（火）～30日（日）、「日韓ジュニアスポーツ交流事業」ソフトボール競技（チーム派遣）が実施された。この「日韓交流事業」は2001年にスタートし、今年で22回目の開催。2019年の開催の後、コロナ禍もあり、2020年～2022年の3年間、「中止」を余儀なくされ、開催を見合わせてきただが、2023年にようやく「再開」され、今年も開催することができた。

韓ジュニアスポーツ交流事業」ソフトボ

ール競技

（チーム派遣）が実施された。

▽11月25日(火)

9時45分、成田国際空港第1ターミナル集合。12時45分、大韓航空・KE2130便で今回の交流事業が実施される韓国・釜山へと出発した。

15時を少し回った時刻に金海国際空港に到着。まずは宿泊先となるホテルへと向かった。

ホテルに到着すると韓国チームが迎えてくれ、先に実施された招待事業(2025年8月8日(金)～13日(水)、千葉県千葉市・千葉県総合スポーツセンターを主会場に実施)以来の「再会」を喜び合い、選手同士でコミュニケーションをとっていた。

夕食を挟み、翌日から実施される親善交流試合や合同練習についてのミーティングが行われた。

▽11月26日(水)

この日は「親善交流試合」を実施。午前・午後各1試合、計2試合を行った。

招待事業実施時と比べて韓国チームのレベルアップを感じられ、交流事業の「成果」が感じられた。

1試合目は6-1で日本が勝利したが、2試合目は6-1で韓国チームが競り勝ち、試合内容だけでなく、試合

「結果」においても交流事業の「成果」を見てくれた。

▽11月27日(木)

済大学附属高等学校の白井監督を中心に行われた。

野手は千葉経済大学附属高等学校が普段の練習で行っているキャッチボールのメニューをこなし、ソフトボールの基礎・基本の練習にはじまり、ノックまで日韓両国の垣根を越えて、一緒に

この日も午前・午後各1試合、計2試合を行った。

両チームで「日韓混合チーム」を編成して試合を行つたため、ウォーミングアップの時から互いにコミュニケーションをとる機会が必然的に多く生まれ、「言葉の壁」もあり、うまく連携がとれないことやチーム編成に戸惑う場面も見られた。

それでも……身振り手振りのゼスチャーや笑え、互いの考え方や想いを何とか伝えようと努力する姿につながり、「上手くいかない」とことさえも「楽しさ」に変え、練習・試合を行い、この交流事業の「原点」や「意義」を改めて感じる一日となつた。

▽11月29日(土)

韓国文化に触れるべく市内観光やショッピングを行つた。「文化交流」の時間も設け、韓国チームの選手が案内役を務め、市内を散策した。

▽11月30日(日)

早朝5時50分にホテルを出発。9時40分、大韓航空・KE2129便で金海国際空港を出発。帰国の途についた。

11時35分、成田国際空港に到着。12時30分、6日間の交流事業を終え、解散した。

午前中に最後の交流試合を行い、午後からは合同練習を行つた。

合同練習では今回の派遣事業で「日本代表」として韓国を訪問した千葉経

●総括

今回の交流事業は、2025年8月の招待事業実施から韓国チームの技術向上、レベルアップを感じられた。それは交流試合の試合内容・試合結果に

も顕著に表れており、近い将来、アジアになつて行い、技術的な指導を交え、互いに気づいた点をアドバイスし合う等、活発な交流が行われた。

ピッチャーに関しては、韓国チームの選手を中心に変化球の練習を重点的に行つた。

▽11月29日(土)

韓国チームの練習や試合に対する一

生懸命な姿勢は、日本の選手や指導者

にとつても「大きな刺激」となり、ソフトボールにかける情熱、向き合う姿勢等、今回の交流事業を通じて、改め

て「見つめ直す」貴重な機会になつたのではないかと思う。

また、話す言葉が違ひ、生活環境も文化も違う「異国」に身を置くことは、改めて日本での生活の利便性や自分たちを支えてくれる家族、仲間、指導者の「ありがたさ」を実感する契機となり、いつもと違う環境で国際交流をする機会は極めて貴重であり、選手にとって大きな財産になつたと感じている。

異なる文化や価値観を尊重し合い、協力する姿勢が自然と培われる交流事業実施の意味・意義を感じた6日間であった。

## 来るべき新たなシーズンへ



## 着々と進む準備……新シーズンに備える

オフシーズンに入り、ホツと一息。東の間の休息の時間……のはずだが、次なる新たなシーズンに向か、その準備が水面下で着々と進められている。審判ルール委員会では、2026年度の「オフィシャルソフトボールルール」の改正作業を中心になって進め、「競技者必携」の改訂作業等も進められた。また、待望久しかった「オフィシャルソフトボールルールケースバック」改訂第7版が2月に発行されることも決定。新たに「動画」が導入される等、従前にはなかった取り組みにも着手している。それだけにとどまらず、「競技者必携」審判の部でも、これまで「イラスト」で掲載されていた「審判員の基本動作」を写真に変更する等、精力的な動きが見られた。

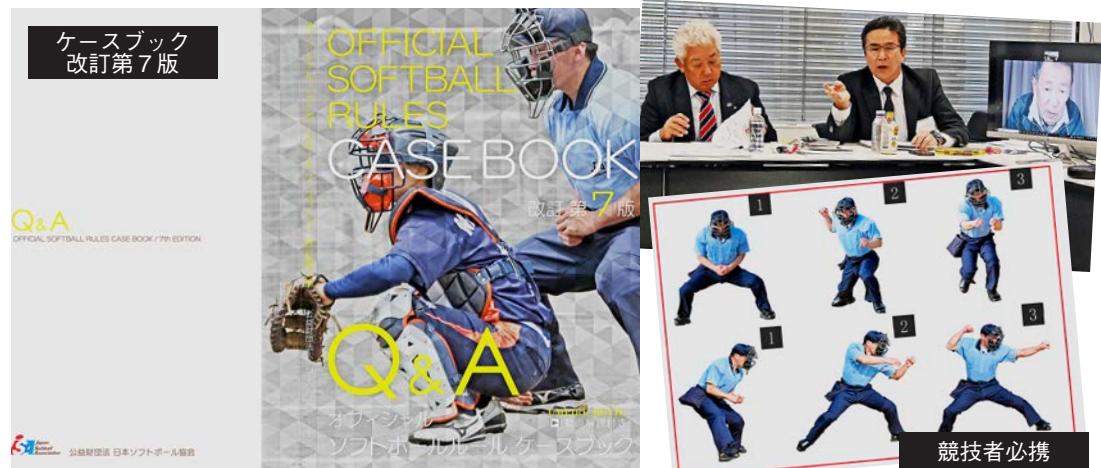
記録委員会では、今シーズンの大会開催にあたっての反省点・今後の課題等が洗い出され、何をどう改善していくらいいか、活発な意見交換と今後へ向けた活動の指針が打ち出されていた。

隔年開催となつた「全国審判員・記録員中央研修会」が2月に開催されることもあり、その準備にも余念がなく、全国津々浦々まで伝達事項を漏れなく伝えるにはどうしたらいいか、より効果的な研修方法・研修内容はないか、と議論を重ね、その準備が日夜続けられている。

## 公益財団法人 日本ソフトボール協会 理事会



## 公益財団法人 日本ソフトボール協会 審判ルール委員会



## 公益財団法人 日本ソフトボール協会 記録委員会





# ●令和7年度第4回理事会議事録●

審議に先立ち、本理事会は会場集合

方式とインターネット会議方式（Zoomミーティング）の併用とし、出席

者が一堂に会するのと同等に適時・的

確な意見表明が互いにできる状態とな

つてることを確認。理事25名中出席

17名（欠席8名）、監事出席2名（欠

席1名）で定款第36条に基づき本理事

会は成立。議長の牧島会長が移動中は、

岡本専務理事兼事務局長が議事を進行

することが確認・了承された。

## ●審議事項

### 第1号議案

#### 諸規程の変更について

岡本専務理事兼事務局長より、服務

規程および関連規則の改正が提案され

た。

主な改正内容は次の通り。

- (1) 病気休暇の期間変更・社会保険労務士からの指摘を受け、現行の90日から30日へと変更する。

- (2) 住居手当の支給対象・支給対象者の定義に「世帯主に準ずる者」の文言を追加し、実態に即した運用を図る。

- (3) 疾病による休職期間の変更・給与補償期間や健康保険の傷病手当金制度の活用を考慮し、現行の3年から1年へと変更する。

- (4) 育児・介護休業等に関する規則の改正・2025年10月に施行された法改正に対応するため、関連規則を改正する。

以上の提案を受け、審議が行われ、改正理由やその根拠について質問があ

り、改正の背景・経緯、根拠を説明。審議の結果、第1号議案は原案通り承認された。

### 第2号議案

#### ガバナンスコード自己説明書の更新について

岡本専務理事兼事務局長より、スポ

ーツ団体ガバナンスコード自己説明の

うち、未達成項目に関する今後の対応

計画について次のように説明された。

### 第3号議案

#### 令和8・9年度役員改選について

現在未策定である「日本代表選手選考規程」について、令和8年2月の理事会での提出・承認をめざし、策定作業を進める。

- (1) 日本代表選手選考規程の策定
- (2) コンプライアンス研修の実施

- 役員、評議員、審判員、記録員等を対象としたコンプライアンス研修を、

考規程」について、令和8年2月の理

事会での提出・承認をめざし、策定作業を進める。

- (1) 各プロックおよび大学・高体連
- (2) ライアンス研修の実施
- に對し、12月を目途に代表理事候補者の推薦を依頼する。

- 役員改選に関する方針と手続きについて、次のように説明された。
- (1) 各プロックおよび大学・高体連
- (2) ライアンス研修の遵守、特に

「女性理事比率40%」の達成目標を推

施実。

以上が説明・提案され、審議の結果、

第2号議案は原案通り承認された。

委員会の委員人選案を提案する予定である。

期日・令和7年11月30日（日）  
13:00～14:35

場所・東京・新宿/Japan

Sport Olympic Square

※インターネット会議方式併用

理事現存量…25名

出席理事…17名

欠席理事…8名

出席監事…2名

欠席監事…1名

議長…牧島かれん

以上が説明され、牧島会長より、役員改選はガバナンスコードを基本方針として運用すること、役員選考委員の選任は規程に則り、任期満了者等が候補となる旨の補足説明があつた。

これらの説明・提案を受け、審議が行われ、審議の結果、第3号議案は原案通り承認された。

#### 第4号議案 令和8年度事業計画・予算編成について

岡本専務理事兼事務局長より、令和8年度の予算編成スケジュールについて、次のように説明された。

(1) 各本部長および委員長に対し、令和8年度の予算案作成を依頼し、定められた期限までに事務局へ提出するよう要請。  
 (2) 提出された予算案を基に、翌年1月に開催される「財務委員会」「常務理事会」で審議できるよう編成作業に取り組む。

以上の説明・提案を受け、審議が行われ、審議の結果、第4号議案は原案通り承認された。

#### 第5号議案 第86回～第89回国民スポーツ大会における正式競技について

岡本専務理事より、国民スポーツ大会(国スポ)におけるソフトボール競技の現状について報告された。

国スポの正式競技としての評価が、1000点満点中430点と極めて厳しい状況にあり、これを受けて11月4日に関係者によるヒアリングが実施された。専務理事兼事務局長と担当事務局次長で対応し、評価回答に向かって明を行つたことが報告された。

1000点満点中430点と極めて厳しい状況にあり、これを受けて11月4日に関係者によるヒアリングが実施された。専務理事兼事務局長と担当事務局次長で対応し、評価回答に向かって明を行つたことが報告された。

#### 第6号議案 倫理・コンプライアンス委員会からの報告・審議 低評価であった要因については、

(1) 普及活動、特に若年層の女性選手の育成や参加に関する具体的な取り組みの提示が不十分。

(2) 国スポを普及戦略にどう活用していくかというロードマップが書面化されていない。

(3) 審判員等における女性参加比率の具体的なデータが未整備。

(4) ガバナンス面で、他競技と比較して特筆すべき加点要素がなかつた。

以上が説明された後、岩崎理事より

バドミントンの事例が提示され、バド

ミントンは過去に同様の低評価を受け

た際、「現状でないことに對し、

今後どのように対策を立てて進めていくか」を具体的に回答することで評価を乗り越えた経験があるとの事例が紹介された。

今後の見通しについては、正式競技としての存続可否は、来年3月に開催される日本スポーツ協会の理事会で最終的に決定される見込みであることが報告された。

本理事会においては、本件を重く受け止め、今後も協会挙げて最善を尽くすとともに、今後の動向を注視していくことが確認された。

今後どのように対策を立てて進めていくか」を具体的に回答することで評価を乗り越えた経験があるとの事例が紹介された。

(1) 現在の職位への推薦を解除  
 (2) 後任候補として●●●氏(※は伏せております)を「外部アドバイザー」として推薦し、業務推進を行つてもらうことについて提案、慎重審議のうえで可決された。

なお、調査終了後に改めて処分要否に關する審議等を行う旨が確認された。

注) なお、未就任であるため本記載では伏せております)を「外部アドバイザー」として推薦し、業務推進を行つてもらうことについて提案、慎重審議のうえで可決された。

競技大会準備への支障が発生している状況に鑑み、緊急的な特例措置として、  
 (1) 現在の職位への推薦を解除  
 (2) 後任候補として●●●氏(※は伏せております)を「外部アドバイザー」として推薦し、業務推進を行つてもらうことについて提案、慎重審議のうえで可決された。



**第7号議案****L A 28に向けた****女子TOP日本代表チームの活動について**

岡本専務理事兼事務局長より、L A 28（2028年ロサンゼルスオリンピック）に向けた女子トップチームの今後の活動計画について、次のように提案された。

**（1）第3次国内強化合宿**

群馬県高崎市で実施  
（2）第4次国内強化合宿  
長崎県大村市で実施  
（3）第1次海外強化合宿  
オーストラリア・ブリスベンで実施  
（4）第2次海外強化合宿  
アメリカ・カリフォルニア州で実施

また、女子TOP日本代表チームへの支援状況が報告され、第4次国内強化合宿の開催地である長崎県大村市および地元企業により「応援する会」が発足される等、多大なる支援を受けていることが報告された。

これらの説明を受け、審議の結果、第7号議案は原案通り承認された。

**第8号議案**  
**総務委員会提案事項**

瀬戸山総務委員長より、次の6項目について提案された。

（1）令和8年度全日本大会日程案  
提示された日程案について、次の変更点を含め、承認された。

①天皇杯（高知県）・高校野球の日程との兼ね合いにより、10月開催となる予定。

②ねりんピック・11月8日～10日開催（監督会議は7日）に変更。

③高校選抜女子・3月19日競技開始（開会式は18日）に変更。

④春季小学生男子（長崎県）・会場を時津町から大村市へ変更する可能性がある。

（2）全日本大会試合球  
ゴムボール使用大会については提案通り決定。なお革ボールについては継続審議。

**（3）全国大会出場チーム数割当**

実業団女子・クラブ女子選手権大会の統合も議論される中、これらの大会を維持・活性化させる方針に基づき、女子カーテゴリーの全国大会出場枠を実

（4）小学生大会の秋季開催（試行）  
近年の猛暑による熱中症リスクを考慮し、令和8年11月に「全日本小学生選抜男女ソフトボール大会」（試みの大會）を鹿児島県および高知県で試験的に開催する。

**（5）コールドゲームの適用**

試合時間の短縮と選手の健康保護を目的として、来年度よりすべての全日大会において、オフィシャルルールに定められた得点差コールド（3回15点、4回10点、5回7点）を適用する。

**（6）指導者資格の確認方法**

試合前に行う指導者資格の確認について、モバイル資格証と身分証明書を併用する方法を改めて徹底する方針を確認。

以上の説明・提案を受け、審議が行われ、審議の結果、第8号議案は原案通り承認された。

**第9号議案**  
**審判・ルール委員会提案事項**

神谷審判ルール委員長より、次の3項目について提案された。

**第10号議案**  
**リーグ委員会提案事項**

西リーグ委員長より次の内容が提案された。

（1）公認審判員規程改正  
審判員の確保・育成を促進するため、第1種公認審判員の受験資格を緩和す

る（第2種公認審判員資格取得後「1年以上を経過し」を「応答月以上とする」に改正）。また、第2種公認審判員の受験資格についても同様とする。  
(2) 2026年版オフィシャルルール改正案

現行ルールの理解を深めるため、文言整理を中心とし、修正点の一覧をまとめた資料が提出された。  
(3) ケースブック改訂第7版の発行と価格改定  
審判員の基本動作、判定基準・ルール適用に関する理解を助ける動画を新たに掲載（QRコードで読み込む）する等、新要素を追加すること、および6年前の前版発行から物価が上昇していることを鑑み、新版の販売価格を2000円（税込）に改定する。

以上が説明・提案され、審議の結果、第9号議案は原案通り承認された。

（1）2026年度日本男子・女子リーグ日程案  
2026年度の試合日程案を提案。

(2) 日本女子リーグ所属チーム移籍  
日本女子リーグ所属チーム「Citrine Ichinomiyā」より提出された移籍申請（活動拠点を愛知県一宮市から島根県へ移す）を提出。

(3) 2026年度日本女子リーグチーム構成  
2026年度の日本女子リーグは、次のチーム構成となる。

【プラチナセクション】  
静甲、YKK、花王コスメ小田原、FENECKS、MORI ALL WAIVE KANOYA、ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校、厚木SC  
【サファイアセクション】  
VOND'S市原、Emerald Green、大和電機Blue Lakers、小泉病院Blue Arrows、平林金属Peach blossoms、ペヤング、Citrine SHIMANE

以上が提案・説明され、審議の結果、第10号議案は原案通り承認された。

## ●報告事項

### 1. 普及本部会報告

磯谷普及本部長より、次の内容が報告された。

(1) ASOBALLの活用  
普及ツール「ASOBALL」を活用し、保護者や家族を巻き込んだ普及活動を推進していく。

(2) 野球・ソフトボール振興会(球心会)

野球・ソフトボール振興会(球心会)との連携、イベントや新たな普及事業である「MIRAI事業」の進捗状況について報告。

### 2. WBSC総会報告

岡本専務理事兼事務局長より、次の内容が報告された。

VOND'S市原、Emerald Green、大和電機Blue Lakers、小泉病院Blue Arrows、平林金属Peach blossoms、ペヤング、Citrine SHIMANE

(1) 宇津木妙子副会長、無任所理事への再任  
WBSC(世界野球ソフトボール連盟)総会において、宇津木妙子副会長が無任所理事に再任。

(2) 各種表彰  
①宇津木妙子副会長  
ゴールデンダイヤモンド勲章を受章。

### 4. その他

鈴木常務理事より、審議事項外の議題として、サスペンデッドゲームの運用について意見が出され、特に中断された試合を「1試合」としてカウントする基準が曖昧であり、大会や審判員の判断によって差異が生じる可能性があるため、明確な規定を設けるべきとの意見が出された。これを受け、今後、担当各委員会で協議・検討していくことが確認・了承された。



田中徹浩ヘッドコーチが「2023最優秀コーチ」、津田龍輝選手が「2023最優秀選手」に選出された。  
④女子TOP日本代表  
宇津木麗華ヘッドコーチが「2024最優秀コーチ」、上野由岐子選手が「2024最優秀選手」に選出された。

(3) アジア連盟総会  
2026年1月開催予定のアジア連盟総会について報告。

あるため、明確な規定を設けるべきとの意見が出された。これを受け、今後、担当各委員会で協議・検討していくことが確認・了承された。

# 事務局だより

## JDリーグ・日本女子リーグ 担当審判員選考会を実施！

昨年12月12日（金）～14日（日）、静岡県伊豆市／天城ドームを会場に「令和8年度JDリーグ・日本女子リーグ担当審判員選考会」（第2次選考会／実技選考）が実施された。

「第1次選考」（書類選考）を通過した65名の審判員のうち、2025シーズン「JDリーグプレーOFF・ダイヤモンドシリーズ」に選出された「12名」はこの「第2次選考」（実技選考）を免除。残る53名が実技選考に臨む予定であったが、不慮のケガ等で2名の参加が叶わらず、当日は「51名」での選考会チャレンジとなつた。

選考会初日は「ペーパーテスト」を実施。2日目・3日目（最終日）は開催地・静岡の飛龍高等学校、星陵高等学校の全面的な協力を得て「投球判定の選考」「実戦形式の選考」が行われ、選考会の全日程を終了した。

今回の選考結果は（公財）日本ソフトボール協会・審判ルール委員会にて合否が決定され、理事会に提案。その後審議・決議を経て、正式発表される。

